

修士論文報告

【修士論文題目】

岡山県牛窓における神功皇后信仰の研究

【目次】

第一章 神功皇后研究の概説

第一節 はじめに

第二節 神功皇后の「巫女的性格」

第三節 神功皇后の「英雄的性格」

第四節 神功皇后の「応神の母としての性格」

第五節 おわりに

第二章 牛窓五香宮の造宮と池田家の信仰

第一節 はじめに

第二節 牛窓への京都御香宮勧請と池田光政

第三節 中世における神功皇后像と徳川家

第四節 近世五香宮と池田家 ―「五香宮記録」より―

第五節 おわりに

第三章 近世牛窓五香宮の安産信仰

第一節 はじめに

第二節 「五香宮記録」内の安産信仰の記録

第三節 京都御香宮と桂女

第四節 牛窓五香宮と民衆

第五節 おわりに

【修士論文概要】

第一章 神功皇后研究の概説

- ・ 近年の神功皇后研究を曾倉岑氏の論¹に基づいて分類し、本論の論点を示す。

第二節 神功皇后の「巫女的性格」

- ・ 『古事記』・『日本書紀』ともに巫女的性格である記述がみられるが、ウケヒを行うのは『日本書紀』のみであることを確認した。また、神功皇后の「巫女的性格」を論じる研究は、上代文学研究のみであり、上代文学研究の域を出ない
- ・ 本論では、中世以降の神功皇后に対する認識・信仰を主に扱うため、「巫女的性格」には触れていない。

第三節 神功皇后の「英雄的性格」

- ・ 主に中世文学を用いた研究が多く、蒙古襲来前後に神功皇后の説話の整備、八幡信仰の盛り上がりがあることを確認した。説話が整備される中で、神功皇后が武神として信仰され、また、女帝としての認識を得ていることが論じられており、中世以降の武士に信仰される神功皇后像が明らかになった
- ・ 本論第二章にかかわる。

第四節 神功皇后の「応神の母としての性格」

- ・ 文学・民俗学・歴史学分野において多岐にわたる研究が行われている。『古事記』・『日本書紀』・『風土記』に記される神功皇后の「応神の母としての性格」のみならず、中世八幡信仰の盛り上がりとともに注目が集まり、『八幡愚童訓』においても、「応神の母としての性格」が顕著にあらわれていたことを確認した。また、母であり産み育てるものとしての神功皇后像から、後世には安産の象徴としても扱われていたことが明らかになった
- ・ 本論第三章にかかわる。

第二章 牛窓五香宮の造営と池田家の信仰

- ・ 牛窓五香宮²の造営を当時の藩主・池田光政が命じたことに着目し、考察を行う

¹ 曾倉岑「神功皇后」『古代の英雄』、『講座日本の神話』編集部編、一九七六年、有精堂出版

² 牛窓神社（八幡宮）の摂社。もとは住吉宮であったが、寛文七（一六六七）年に造営され、京都御香宮より神功皇后と応神天皇が勧請された。神功皇后が三韓征討に向かう際に立ち寄り、凱旋時には鎧や太刀を納めたという伝承が残る。

た。

第二節 牛窓への京都御香宮勸請と池田光政

- ・ 寛文七（一六六七）年に牛窓五香宮が造営され、京都御香宮から神功皇后と応神天皇が勸請された。
- ・ 同時期に岡山藩では寺社整理政策が推進されていたため、牛窓五香宮の造営は光政の意図があつてのものではないか。

第三節 中世における神功皇后像と徳川家

- ・ 京都御香宮は徳川家康の崇敬があつたことを由緒書で語っており、また、徳川家は源氏として八幡神を崇敬していた。
- ・ 光政は全国に先駆けて東照宮を領内に勸請し、將軍家との血縁もあつた。光政の意識では「徳川家の崇敬する神功皇后」が存在し、牛窓五香宮の造営と京都御香宮からの勸請にもつながっているのではないかと指摘した。

第四節 近世五香宮と池田家 — 「五香宮記録」より —

- ・ 「五香宮記録」³を調査することにより、光政が造営に関わつた五香宮は、光政以降の池田家に信仰されていたことが明らかとなった。
- ・ 藩主・継政の神宝の上覧以降、池田家に影響を及ぼしたと考察を行った。

第三章 近世牛窓五香宮の安産信仰

- ・ 神功皇后の安産信仰に着目し、牛窓五香宮が池田家と民衆に向け、どのような活動を行っていたのかについて考察を行った

第二節 「五香宮記録」内の安産信仰の記録

- ・ 「五香宮記録」を調査することで、藩主・継政の上覧以降、安産利益の方面において、五香宮は池田家に信仰されていることが明らかになった。

第三節 京都御香宮と桂女

- ・ 近世における京都御香宮は、幕府に向けて豊臣秀吉や徳川家康とかかわる鎮護国

³ 『牛窓神社文書』『五香宮記録』は、牛窓神社宮司・岡崎義弘氏より拝借した複製版による。成立ははっきりと記載されないが、記録自体は貞享三（一六八六）年よりはじまる。藩や奉行所宛ての手紙、その返事などが記録されている。また、「五香宮記録」については、倉地克直氏、木村朗子氏が記録を用いた研究を行っている。

- ・ 家・武運長久の利益を語ることが主だった。
- ・ 同時期に京都周辺で活動していた桂女は、積極的な勧化により、民衆へと神功皇后の安産・疱瘡除けの利益を広めていた。

第四節 牛窓五香宮と民衆

- ・ 牛窓五香宮は元文四（一七三九）年に民衆へ向けた神宝の開帳を行っているが、結果は「殊外不繫昌」であり、民衆には神功皇后の安産利益は広まっていなかった。
- ・ しかし、神社が主体となり民衆へ安産利益を広めようとした動きは、牛窓五香宮の独自性があらわれた活動であった。